

審議会等議事概要

平成28年度 第2回滝川市いじめ防止専門委員会 議事概要

日 時	平成29年2月20日（月）15：30～16：30
開催場所	滝川市役所 7階 701会議室
出席者	会長：富家直明委員 委員：中川桂子委員、神原充史委員、豊田收委員 事務局：山崎教育長、田中部長、小野指導参事、杉原課長、寺嶋課長補佐、堤主査
議 事	<p>1 開 会 進行：寺嶋課長補佐</p> <p>2 会長挨拶 富家直明会長より挨拶</p> <p>3 議 題</p> <p>(1) 報告</p> <p>i 「平成28年度絆づくり成果交流会」実施報告書について ii について、堤主査より報告</p> <p>質疑応答等</p> <p>①委員)</p> <ul style="list-style-type: none">・小学校と中学校が同じ行事予定で活動を行うという難しさもあったかと思うが、そのあたりのご苦労を伺いたい。 <p>事務局)</p> <ul style="list-style-type: none">・日課が違う中で時間を生み出す苦労はあったが、校区が最大でも小中三校であるため小回りが利くという点を利用してお互いに連絡を取り、放課後や朝の時間を活用してできるところから取り組もうという姿勢で活動したところである。今年度の実績を元に、次年度も校区ごとに創意工夫してくれるものと考えている。 <p>②委員)</p> <ul style="list-style-type: none">・小中連携が課題となっている中、いじめという問題をこのような活動で共有できているのは素晴らしい。今後もぜひ継続して取り組んでほしい。 <p>ii いじめアンケート調査（2回目）の結果概要について ii について、堤主査より報告</p> <p>質疑応答等</p> <p>①委員)</p>

- ・「今もいじめられている」と答える児童生徒は学年が上がるにつれて減少しており、絆づくりの活動やコミュニケーション教育の成果だと考える。対して、入学間もない小学校一年生や二年生の「今もいじめられている」という回答への対案があれば伺いたい。

事務局)

- ・低学年は対人スキルや言葉による意思伝達が未成熟なため、思わず手足が出てしまう行動が「今もいじめられている」という回答に反映されていると思われる。この対案についてはまず、教師が一つ一つの事案をきめ細やかに指導、説諭することが大切であると考えている。また、高学年がその場に応じたアドバイスをすることで、子どもたち同士であるべき人間関係を教える場にもなっている、異学年交流も大切な取り組みであると考えている。

委員)

- ・小学校一、二年生の相談相手のトップが「父母」であることからも、低学年の段階においては家庭の協力が不可欠かと感じるところである。

②委員)

- ・全国でいじめ対策が進んでいるが、「いじめはどんなことがあっても許されない」と思わない児童生徒が一定数いるという現実の壁に等しく直面している。いじめを肯定する側の言い訳として「自分もつらい目にあってる」というものがあるが、助けを求めることができないストレスを抱えている児童生徒がいじめを肯定する児童生徒と同等数いるのではないかという一説がある。「いじめはどんなことがあっても許されない」と思わない児童生徒を減らすためには、「いじめはダメ」だけを説くのではなく、その子の置かれている環境等を鑑みて法的アプローチも必要になるかと思うところである。

③委員)

- ・相談相手として「先生」が上位に挙げられているのが印象的である。教師の信頼性が伺える、よい傾向であると感じた。

④委員)

- ・「誰にも相談しない」という回答に対する取り組みはあるのかを伺う。

事務局)

- ・回答数には注視していたが、実際に聞き取り等は行っていない。

委員)

- ・なぜ誰にも相談しないのか、その中身にアプローチすることで、この回答数が下がればよいと思う。

(2) 協議

i いじめに関する通報・相談状況について

ii いじめ認知状況について

i、iiについて、堤主査より説明

質疑応答等

- ①委員)
- ・各事案について、落ち着いて聞き取りができると感じた。
 - ・前回の会議よりいじめ認知件数が減っているのが見て取れた。
- 事務局)
- ・積極的ないじめ認知と再発防止の指導が、今回の認知件数の減少につながったのではないかと考える。
 - ・認知総数そのものは昨年度より多くなっており、引き続き積極的ないじめ認知と再発防止を徹底する所存である。
- ②委員)
- ・いじめを受けた時期から早期に事案が上がっており、よい傾向だと感じた。
- ③委員)
- ・本人がアンケートによっていじめを訴えた事例があり、アンケートが有用であることを改めて感じた。
- ④委員)
- ・いじめの早期発見、深刻化防止がなされ、通報相談やアンケートが機能している表れだと感じた。
 - ・事案が発覚した際、各学校がいじめ対策委員会を開催し、しっかりと対処しているのが素晴らしい。
 - ・個人的な感想として、状況が改善しないケースが生じた場合の対策もこれから考えていかなければならない時代になってきているのかと感じているところである。
 - ・糾づくりの活動に代表されるようないじめ問題への取り組みを少しずつ行っていくことが、今年度の後半の一つの成果としてつながったと思う。今後、交流会などをさらに深めるとともに、「いじめはどんなことがあっても許されない」と思わない児童生徒の数値が少しでもゼロに近づくよう、期待するところである。

4 教育長挨拶

5 連絡事項
特になし

6 閉会

会議資料 会議次第